

眺望山のヒバ林

～穴川沢ヒバ成長量試験地・ヒバ保護林（植物群落保護林）～

地域の森としての眺望山



眺望山は青森県の青森市内から北西約 20km の場所にある山で、青森市と五所川原市にまたがる形で位置しています。かつては頻りに山火事が発生する山だったため通称「焼山」と呼ばれていました。しかし、大正 7 年（1918 年）に当地を訪れた農商務省山林局長（現林野庁長官）が、山頂から眼下に臨まれる陸奥湾をはじめ、青森市の街並み、周辺の山並みを賞賛され、「眺望山」と名付けられました。

眺望山では、秋田スギ・木曽ヒノキと並ぶ日本三大美林の一つであり、青森県の県木にもなっている「青森ヒバ（和名：ヒノキアスナロ）」の美林を見ることができます。また、青森ヒバの他にもヒノキ、カラマツ、スギによる樹齢 100 年以上の人工造林地等があり、植物の種類も豊富で、山頂まで急な坂道がないことから、森林浴・植物観察など気軽に散策が楽しめる場所です。

さらに、眺望山一帯は昭和 43 年（1968 年）10 月に全国 10 箇所の中の 1 つとして「自然休養林^{※1}」に指定されました。同時に、明治百念記念事業の一環として青森県から「県民の森」に指定されており、憩いの場として広く地域の方々から親しまれています。

青森ヒバ

- ・和名 ヒノキアスナロ（俗称：青森ヒバ）
（ヒノキ科アスナロ属の日本特産樹種）
- ・分布 北海道南部～関東北部（8 割以上が青森県）
- ・特徴 「ヒノキチオール」という物質を多く含み、これによってカビ、細菌、ダニ等に対して強く、腐りにくい性質を持っています。



雌花



雄花

シロアリにも強いため、古くから家の土台に使われており、一般住宅だけでなく、神社仏閣などの歴史的建造物の建築材としても活用されています。

試験地・保護林としての眺望山

眺望山一帯は地域の方々に親しまれる山である一方で、いち早く天然青森ヒバの択伐成長量試験地等が設定された場所でもあります。試験地では青森ヒバ択伐林への誘導を目的として施業を繰り返し、林分構成の変化、成長の過程などを明らかにするとともに、生産性が高く、収穫の永続的な施業を作り上げるための管理を行っています。そのため、眺望山は森林施業における調査研究の先駆的役割を果たしており、試験地の設定当時から林業関係者等の視察の場所として沢山の方々が訪れています。

また、青森ヒバ老齢の純林が多い津軽半島の青森ヒバ天然生美林を保存するため、眺望山の一部は「保護林^{※2}」に設定されています。保護林では伐採などは行わず、自然の状態が保たれるように森林管理を行っており、学術上の考証に資するために林木配置や林分構成・成長過程の観察も行っています。

穴川沢ヒバ成長量試験地

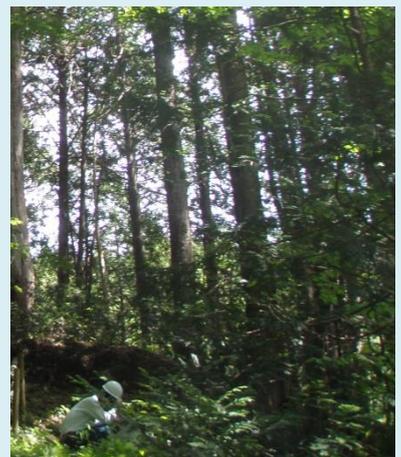
- ・ 位置 内真部山国有林 13 ほ、へ林班
- ・ 設定 大正 3 年（1914 年） 1.10 ha（第 1 試験地）
大正 14 年（1925 年） 8.15 ha（第 2 試験地）
- ・ 林 齢 約 190 年
- ・ 施業方法 第 1 試験地の設定はヒバ林試験地中最も古く、試験地に設定されて以降、合計で **6 回の択伐が実行**されています。周囲のヒバ林を区画して設定された第 2 試験地では、合計 **5 回の択伐が実行**されています。



その間、中間成長調査や植生調査等も実施しています。また、最後に行った択伐後、跡地は末木枝条の取り片付け等更新補助作業を実施しており、林内ではその効果が出始めています。林内は稚樹から大径木までの多段林型をなし、適度な陽光があるため下層植生も比較的豊富です。

ヒバ保護林(植物群落保護林)

- ・ 位置 内真部山国有林 8 は 1、は 2、に、9 は、に林班
- ・ 設定 大正 7 年（1918 年） 44.81 ha
- ・ 林 齢 約 200 年～240 年 平均約 215 年
- ・ 施業方法 **原則として禁伐**（大正時代に僅少の被害木を伐採）。林内は原生林に近い「ヒバ純林」で、立派な大径木が存在しますが、林冠が閉じて陽光が入りにくくなっています。そのため、下層にはツルアリドウシやツルリンドウ等の耐陰性の強い植物が生育しています。



試験地と保護林の成長量比較

単位: (m³/ha)

区分	穴川沢ヒバ第1試験地			穴川沢ヒバ第2試験地			ヒバ保護林		
	蓄積量	伐採量	累積蓄積量	蓄積量	伐採量	累積蓄積量	蓄積量	伐採量	累積蓄積量
大正3年(1914)	428	-	-	-	-	-	-	-	-
4年(1915)	-	177	-	-	-	-	-	-	-
10年(1921)	-	-	-	-	-	-	528	-	-
14年(1925)	-	-	-	321	-	-	-	-	-
昭和元年(1926)	-	52	-	-	146	-	-	-	-
8年(1933)	-	35	-	-	38	-	-	-	-
14年(1939)	-	51	-	-	49	-	-	-	-
27年(1952)	-	97	-	-	90	-	-	-	-
57年(1982)	-	174	-	-	130	-	-	-	-
伐採量合計	-	586	-	-	453	-	-	-	-
平成3年(1991)	-	-	-	-	-	-	534	-	534
6年(1994)	371	-	957	298	-	751	-	-	-
設定・調査時から の期間成長量	529			430			6		
年平均成長量	6.6			6.2			0.1		

穴川沢ヒバ成長量試験地では、大正4年(1915年)・昭和元年(1926年)・昭和8年(1933年)・昭和14年(1939年)・昭和27年(1952年)・昭和57年(1982年)に択伐を繰り返すことによって約500~600 m³/haの青森ヒバ材を産出しています(大正4年の伐採は第1試験地のみ)。この伐採量は保護林に蓄積している青森ヒバとほぼ同じ量に匹敵します。しかし、それだけ多くの青森ヒバを伐採しているにもかかわらず、試験地に残っている立木は特段損なわれることもなく、成長を続けていることが表から伺えます。このことから、青森ヒバは試験地のように定期的に択伐を行うことで、持続的に木材を収穫できる可能性があると分かります。そのため、現在、青森ヒバ林で伐採を行っていく際は、択伐による方法を基本としています。

一方、保護林では、伐採を行わなかったにもかかわらず、大正時代から現在に至るまでの約100年もの間、材積の増加(成長量)がほぼ止まった状況にあったことが分かります。しかし、成育している限り立木の成長が止まることはないため、林内では成長した量とほぼ同じ量の枯死木が同時に発生していると推察できます。このことから、保護林内は今から約100年前(樹齢約100年)の時点で既に、成長が止まったように見える平衡状態にあったと考えられます。

用語解説

自然休養林^{*1}…昭和43年(1968年)に発足した制度である。森林レクリエーション等の増大に応えるため、人々の憩いの場として森林を活用する目的で設定される。

保護林^{*2}…大正4年(1915年)に発足した制度である。原始的な天然林などを保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資する目的で設定される。このうち「植物群落保護林」には、地域の自然を代表するものとして保護を必要とする植物群落等が設定される。

眺望山周辺案内図



ヒメホテイラン
生育場所：不定

穴川沢ヒバ成長量試験地



穴川沢林道

ヒバ保護林 (植物群落保護林)



所在：穴川沢ヒバ成長量試験地…青森県青森市大字内真部字内真部山国有林 13 ぼ・へ林小班

ヒバ保護林…青森県青森市大字内真部字内真部山国有林 8 林班は 1・は 2・に小班、9 林班は・に小班

林野庁 東北森林管理局 青森森林管理署



〒038-0011 青森市篠田三丁目 22-16

電話 017-781-0131

FAX 017-766-3755

Eメール t_aomori@maff.go.jp